学士院賞に松村氏ら

中世仏語辞書を編さん

日本学士院は12日、優れた業績を上げた研究者に贈る日本学士院賞に、中世フランス語の辞書を編さんした松村剛東京大教授（58）や、生物の細胞内の成分濃度を調整するたんぱく質の構造を明らかにした豊島近東京大教授（63）ら9人を選んだと発表した。2人には恩賜賞も贈る。生物種の保全に関わる研究者に隔年で贈る日本学士院エジンバラ公賞には、化石の発見などで人類の起源と進化の解明を進めた諏訪元・東京大教授（63）を選んだ。

学士院賞には他に、ほぼ水でできたゲル状の新材料などを生み出した相田卓三理化学研究所副センター長（61）や、地球温暖化がアジアの水稲生産に及ぼす影響を解析した堀江武京都大名誉教授（75）が選ばれた。清野進神戸大特命教授（69）は、血糖を調節するインスリンが膵臓から分泌される仕組みを解明したことが評価された。

授賞式は6月に東京・上野の日本学士院で開かれる。

日本学士院賞の受賞者と授賞理由は次の通り。（敬称略、住所は自宅）

◇日本学士院賞・恩賜賞

松村　剛（まつむら・たけし）東京大教授、中世フランス語。中世フランス語の辞書を独力で編さん。58歳。東京都出身。東京都大田区。

豊島　近（とよしま・ちかし）東京大教授、生物物理学。細胞のイオンポンプたんぱく質の構造を解明。63歳。秋田県出身。東京都文京区。

◇日本学士院賞

三佐川亮宏（みさがわ・あきひろ）東海大教授、ドイツ中世史。史料からドイツ史の開始期を特定。57歳。札幌市出身。神奈川県伊勢原市。

楠岡　成雄（くすおか・しげお）東京大名誉教授、数学。確率解析と数理ファイナンスの研究。64歳。大阪市出身。東京都世田谷区。

丸岡　啓二（まるおか・けいじ）京都大教授、有機合成化学。アミノ酸の大量合成に有用な触媒を確立。64歳。三重県出身。大津市。

相田　卓三（あいだ・たくぞう）理化学研究所副センター長、高分子化学。強力なゲル状新素材を開発。61歳。大分県出身。東京都文京区。

堀江　武（ほりえ・たけし）京都大名誉教授、作物学。地球温暖化でアジアの水稲生産に及ぼす影響を解析。75歳。島根県出身。茨城県つくば市。

長野　哲雄（ながの・てつお）東京大名誉教授、薬学・ケミカルバイオロジー。蛍光の発光強度の制御。68歳。東京都出身。東京都杉並区。

清野　進（せいの・すすむ）神戸大特命教授、代謝学。血糖を調整するインスリン分泌の仕組みを解明。69歳。松江市出身。兵庫県芦屋市。

◇日本学士院エジンバラ公賞

諏訪　元（すわ・げん）東京大教授、自然人類学。初期人類の化石発見など人類の起源と進化の研究。63歳。東京都出身。東京都国分寺市。

犯罪被害者の会「目標達し」解散

6月に

犯罪被害者の支援や権利の確立を目指し、2000年1月に設立された全国犯罪被害者の会（あすの会）が、6